

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7  8  9  www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

報道関係各位

日本初の携帯電話による映画祭「ポケットフィルム・フェスティバル」、 公募作品審査結果と開催プログラム決定のお知らせ

404 の公募作品の中から 48 作品を選定
作品上映のほか、トークセッションやシンポジウム、
来場者向けワークショップなどを実施

2007 年 11 月 20 日

ポケットフィルム・フェスティバル実行委員会

ポケットフィルム・フェスティバル実行委員会（実行委員：東京藝術大学、ソフトバンクグループほか）は、日本初の携帯電話を撮影機材にした映画祭「ポケットフィルム・フェスティバル」（以下「フェスティバル」）で上映する作品を、2007 年 9 月 21 日（金）～11 月 5 日（月）の期間で公募しましたが、このたび、404 の公募作品の中から、一次審査の結果、48 作品（スクリーン上映部門 25 作品、モバイル・ディスプレイ部門 23 作品）を選定しました。公募作品は、2007 年 12 月 7 日（金）～12 月 9 日（日）の期間、「フェスティバル」開催会場※にて上映され、2007 年 12 月 9 日（日）の「フェスティバル」最終日に、最終審査を経て受賞作品が発表されます。また、公募作品の上映のほか、様々なジャンルの第一線で活躍するクリエイターの作品やフランスでの過去の作品の上映、トークセッションやシンポジウム、来場者向けのワークショップなど開催プログラムが決定しましたのでお知らせします。

※東京藝術大学映像研究科 横浜キャンパス新港校舎（横浜市中区新港 2-5-1）、馬車道校舎（横浜市中区本町 4-44）

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7  18  19  www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

■公募作品の総評

第一回ポケットフィルム・フェスティバルは、2007年9月21日（金）～11月5日（月）という短い公募期間にも関わらず、予想を上回る404もの作品が集まりました。また、日本をはじめとしてアジアの国々など18カ国からの応募があり、携帯電話というツールの可能性に対して、国を超えて高い関心が集まっていることを改めて感じました。

【モバイル・ディスプレイとスクリーン】

モバイル・ディスプレイを通して見る作品は、それを写した人の体験を追体験しているという感覚、言い換えれば撮影者と一体になるような感じがします。応募作品の中には、このような親密な関係を計算して作られた、モバイル・ディスプレイならではのものも見られました。

スクリーン部門にはどちらかというと、映像制作経験のある人たちの応募が多かったようですが、大きなスクリーンでの作品上映がどんなものなのか、是非この機会に、大勢の方々に体験してもらいたいと思います。

【作品の傾向】

作品の傾向としては、携帯電話の画面の中で起こる事件や、交換されるメールが織りなすドラマ、あるいは、携帯電話の中に貯め込まれていた過去の映像を取り出して、編集し直した作品など、携帯電話が生活の隅々まで浸透し、そこで様々な個人的体験が生まれていることを感じさせる作品が見られます。

カメラとディスプレイがわずか1センチで背中合わせになっている携帯電話のメディアとしての特性を、十分に活用した新しい表現手法も今回の特長といえます。これらは、携帯電話の進化そのものを楽しむことのできる文化を背景とした携帯電話先進国ならではの傾向といえます。

【海外】

国内ばかりではなく、海外、特にアジアからも多くの参加があり、作品を通して多くの異なった世界を見ることができました。一般的な映画を通して見えてくる世界とは異なり、手のひら数ミリの距離から生み出された作品は、時としてあまりにも個人的な世界を伝えていましたが、同じアジアに住み、同じ携帯電話を使っているから、あるいは使っているからこそ、こうした聞こえてこない声が聞こえて来るのではないのでしょうか。

(実行委員長：藤幡正樹)

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7 FRI | 8 SAT | 9 SUN www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

<公募作品の傾向>

【部門】

・モバイル・ディスプレイ部門が7割以上。

部門	合計
スクリーン上映部門（以下 SC）	83
モバイル・ディスプレイ部門（以下 MD）	300
不明	21

【上映時間】

・1分前後の作品が過半数。最短上映時間は9秒、最長は45分。

上映時間	SC	MD	不明	合計
0～59秒	12	117	12	141
1分～1分59秒	17	84	6	107
2分～4分59秒	38	80	2	120
5分～9分59秒	13	15	0	28
10分～29分59秒	2	2	1	5
30分～59分59秒	1	2	0	3

【カテゴリー】

・最も応募の多かったカテゴリーは、「エクスペリメンタル」（実験映像）。 ※申告ベース

カテゴリー	SC	MD	不明	合計
アニメ・CG	7	32	1	40
ドキュメンタリー	10	46	1	57
コメディ	6	59	1	66
ドラマ	7	19	0	26
サスペンス・ホラー	4	5	0	9
エクスペリメンタル	38	87	0	125
その他	11	52	18	81

【制作費】

・半数が制作費0円。 ※申告ベース

制作費	SC	MD	不明	合計
0円	38	163	1	202
1～999円	10	40	2	52
1,000～9,999円	20	40	1	61
10,000～99,999円	10	15	0	25
100,000円～	1	2	0	3
不明	4	40	17	61

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7 FRI | 8 SAT | 9 SUN www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

【監督の国籍】

・全 18 カ国。国籍別監督数の上位 3 カ国は、日本 (171)、シンガポール (128)、中国 (28)。 ※申告ベース
アルゼンチン、イスラエル、インド、インドネシア、英国、韓国、シンガポール、スリランカ、台湾、中国、チェコ、
日本、ブラジル、フランス、米国、ベトナム、マレーシア、ロシア

【監督の年齢】

・20～29 歳が過半数を占める。次いで 10～19 歳が約 4 割。最年少は 13 歳。最年長は 53 歳。 ※申告ベース

10～19 歳	153
20～29 歳	204
30～39 歳	24
40～49 歳	10
50～59 歳	2
不明	11

【監督の性別】

・男女比はほぼ同率。 ※申告ベース

男性	188
女性	192
不明	24

【監督の職業】

・大学生が約 7 割を占める。 ※申告ベース

会社員	20
自営業	4
パート・アルバイト	4
大学院生	25
大学生	297
短大・専門学校生	22
中学生	1
無職	2
その他	29

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7 FRI | 8 SAT | 9 SUN www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

■プログラム

1. 上映プログラム

【コンペプログラム（公募作品）】

公募作品の中から、一次審査で選定した 48 作品を上映します。スクリーン上映部門 25 作品が大型スクリーンで上映され、モバイル・ディスプレイ部門 23 作品は携帯電話の画面で上映されます。作品は、日本をはじめ、イスラエル、インド、韓国、シンガポール、中国、チェコ、ドイツ、フランスなど、様々な国からの出展になります。

<スクリーン上映部門>（敬称略 順不同）

監督	監督国籍 / 制作国	作品名	ジャンル
Lili range le chat	フランス	His Butterfly flew away	エクスペリメンタル
Nooraini Shah Binte Sikkander	シンガポール	Bengawan Solo	コメディ
徐 民周	韓国	浄化	ドラマ
金 大植	韓国	2face	ドラマ
新佐 紘之	日本	PAPER DRIVE	エクスペリメンタル
森根 光春	日本	ヨリミチズ	エクスペリメンタル
郭 卞忠	日本	逡巡する機械	ドキュメンタリー
関口 敦仁	日本	color function #01	エクスペリメンタル
津田 道子	日本	passerby	エクスペリメンタル
松山 太一	日本	LIMITED SPACE	アニメ・CG
白井 亮祐	日本	メールがこない	コメディ
小谷 隆	日本	Mobile Eyes ～ケイタイ、ミテル。	ドラマ
PIR	日本	ロシアの山	ドキュメンタリー
加藤 充彦	日本	悲劇の下着	サスペンス・ホラー
加藤 充彦	日本	密室の殺意	サスペンス・ホラー
引地 美香	日本	You make me.	ドキュメンタリー
佐橋 龍	日本	携帯喧嘩	ドラマ
齋藤 信一	日本	Electric wire play	エクスペリメンタル
望月 俊孝	日本	午前 2 時の空腹	その他
Tom_s Kopečný	チェコ / ドイツ	Empty	その他
Gideon Amichay	イスラエル / ドイツ	HELLO	その他
堀田 典子	日本	Images, 2004-2007	ドキュメンタリー
Min Luo	中国 / シンガポール	記録	ドキュメンタリー
播本 和宜	日本	measure	エクスペリメンタル
清水 淳子	日本	言い訳、そして愛情。	ドラマ

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7  8  9  www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

<モバイル・ディスプレイ部門> (敬称略 順不同)

監督	監督国籍 / 制作国	作品名	ジャンル
Duck Kyue Yang	韓国	Remember	ドラマ
壺見 高校	日本	Walkers	ドラマ
三宅 佑治	日本	世情にむせぶ	ドキュメンタリー
小林 大祐	日本	720/24	実験的
小島 由香	日本	おやゆびむすめ	カウンセリング
末宗 真理	日本	Sowasowa	実験的
萩原 美帆	日本	ジオラマン	アニメ・CG
萩原 美帆	日本	ジオラマン #2	アニメ・CG
NurAqidah Sahari Wijaya	シンガポール	Humour Technology	コメディ
牧 鉄兵	日本	Light of Baja	その他
Kel Win Wong	シンガポール	Paces Between	実験的
Anissa Azzyati Raimee	シンガポール	Kam Ba Te	その他
小川 泰明	日本	銀の空	ドラマ
岡 慶	日本	Bcc:	サスペンス・ホラー
永岡 陽平	日本	ある加速した一日	ドキュメンタリー
Weilong Hong	シンガポール	Seeking Truth	その他
阿部 沙耶香	日本	メール	実験的
Trushna Jijoo Billimoria	インド / シンガポール	Beyond the third person	実験的
菅野 詩織	日本	my memory	コメディ
山下 真有香	日本	下克上	アニメ・CG
林 真穂	日本	食卓	アニメ・CG
飯村 有加	日本	風呂 bade ロマン	アニメ・CG
水谷 まどか	日本	妄想	アニメ・CG

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7  8  9  www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

【テーマプログラム (オリジナル映像作品)】

映画監督、映像作家、写真家、ミュージシャン、イラストレーター、メディアアーティスト、建築家、落語家など、様々な表現ジャンルで活躍する 22 組 24 名のクリエイターが、「フェスティバル」に提案するオリジナル映像作品のプログラムです。作品は大型スクリーンとモバイル・ディスプレイに分けられて上映されます。

<クリエイタープロフィール>

伊藤ガビン 編集者、ゲームデザイナー、現代美術作家

1963 年、神奈川県生まれ。コンピューター雑誌の編集者を経て、現在は編集、執筆のほか、CG・映像制作、テレビ番組企画、ゲームソフト開発など多方面で活躍。美術展も「六本木クロッシング 2007：未来への脈動」ほか多数参加。

伊藤桂司 グラフィック・デザイナー

1958 年、東京都生まれ。2001 年度東京 ADC 賞受賞。個展多数。国内外の展覧会にも参加。作品集は「FUTURE DAYS」(青山社)など。アートディレクションや映像などの活動も展開している。 <http://www.site-ufg.com>

生西康典※1 アート・ディレクター、“アナーキー・フィルム・フェスティバル”プログラム・キュレーター

1968 年、広島県生まれ。映像と音響によるインスタレーション作品を「六本木クロッシング」展(森美術館)などに出品。主な DVD 作品「Dark Room filled with Light」音楽/Filament (Sachiko M 大友良英)、「Mouse Escape」原画/大竹伸朗など。

掛川康典※1 ディレクター

1972 年、群馬県生まれ。TVCM、MUSIC VIDEO、ファッションショーなどの映像演出からビデオ&サウンドパフォーマンスなどの顔も持つ。ROBERT ASHLEY オペラ「DUST」の映像制作、「GUNDAM 来るべき未来のために」展(サントリーミュージアム)などに出演。

アピチャップン・ウィーラセタクン アーティスト、映画監督

1970 年、タイ・バンコク生まれ。物語を出演者に委ねる実験的な作品でブレイクし、ドキュメンタリーとフィクションを往來する作風で評価を得る。過去に 2 度「カンヌ映画祭」で受賞。現在、東京都現代美術館にて展示中。

<http://www.kickthemachine.com/>

宇田敦子 動画編集家

1973 年、神奈川県生まれ。デジタルツールを使って、アナログメディアの感触と風合いを生かしたコンテンツ制作を行っている。ビデオ作品に「福田さん」など。動画コンテンツ制作のクリエイターユニット「動画まわり」代表。

<http://www.mawari.jp>

梅川良満 写真家

1976 年、東京都生まれ。ハイエンドな表現の中に、イルドでドープでフレッシュな霊界 MESS:AGE を込めたマッシュヴな作風で R.I.P. な写真家。カルチャー誌、CD、広告などを中心に幅広く活動。 <http://www.umekawayoshimitsu.com/>

エキソニモ アートユニット

千房けん輔と赤岩やえによるアートユニット。インターネット上で展開する作品を多く手がけ、自作のソフトウェア/装置などによるインスタレーションやライブパフォーマンスなど多岐に渡る。2006 年アルス・エレクトロニカにてネット部門グランプリ受賞。 <http://www.exonemo.com/>

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7  8  9  www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

かわなかのぶひる 映像作家

1941年、東京都生まれ。60年代はじめ頃から8ミリで個人をベースとする映像を手がける。一方、実験映画のオルガナイザーとして創造の拠点を創出し続け、イメージフォーラムを設立。付属映像研究所講師として31年間後進を指導。

KUJUN サウンドコンポーザー、ドラマー

1971年、神奈川県生まれ。普段は音楽家。小さい頃映画監督に憧れる。十代後半の誕生日にビデオカメラをプレゼントしてもらい実験的にハマる。二十代では、やっぱり俺は音楽家だと気づく。吉岡徳仁デザイン携帯「MEDIA SKIN」着信音作曲など。

ジョナサン・ターナー ビデオアーティスト

1976年、米国生まれ。ニューヨークをベースとし、フィルム、ビデオ、デザイン、広告、アニメーション、アートの広域に渡り活躍している。日本でも映像作品を上映。近作は、マドンナ「コンフェッションツアー」のアニメーションなど。

<http://make-believe.tv/>

タナカカツキ マンガ家

1966年、大阪府生まれ。1985年マンガ家としてデビュー。著書に「バカドリル」「オッス！トン子ちゃん」など。CG・アニメーション作品も数多く「タナカカツキの太郎ビーム！展」「タナカカツキのマトリョニメ展」など展覧会も開催。

<http://www.kaerucafe.com/ka2ki/>

永戸鉄也 アーティスト・アートディレクター

1970年、東京都生まれ。音楽、書籍、広告の分野でアートディレクション、グラフィックデザイン、映像制作に携わる。2003年、第6回文化庁メディア芸術祭デジタルアート部門・優秀賞受賞。東京都庁で個展を行うなど、その活動は多岐にわたる。

<http://www.nagato.org>

中原昌也 ミュージシャン、作家

1970年、東京都生まれ。「暴力温泉芸者」、「ヘア・スタイリストックス」として音楽活動を展開。執筆では映画批評やコラムのほか、小説「あらゆる場所に花束が…」第14回三島由紀夫賞、「名もなき孤児たちの墓」第28回野間文芸新人賞受賞。

林家たい平 落語家

1964年、埼玉県生まれ。本名、田鹿明、武蔵野美術大学卒業。「笑点」大喜利レギュラーメンバー。昨年、「芝浜ゆらゆら」でCDデビュー。独演会で携帯電話による写真上映に取り組むなど様々な表現活動にチャレンジ。

<http://www.hayashiya-taihei.com>

ウィスット・ポンニミット マンガ&アニメーション作家

1976年タイ・バンコク生まれ。1998年タイでマンガ家デビュー。2003年より神戸に3年ほど滞在し、現在バンコク在住。得意な楽器はドラムで、アニメーション・ライブではピアノ演奏も。「IKKI」（小学館）でマンガ連載中。

<http://soimusic.com/wisut/>

松原弘典※2 建築家、慶応義塾大学総合政策学部准教授

1970年、東京都生まれ。東京大学大学院修了後、伊東豊雄建築設計事務所勤務を経て、2005年、北京松原弘典建築設計諮詢有限公司設立。主な著書に「現場設計-中関村図書大厦内装設計」。2005年、ID + C 最佳設計賞受賞。

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7  8  9  www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

迫慶一郎※2 建築家

1970年、福岡県生まれ。東京工業大学大学院修了後、山本理顕設計工場勤務時に、渡中。2004年、SAKO 建築設計工社設立。主な著書に「EDGE 素材のチカラ」。2006年、JCD デザインアワード銀賞受賞。

サイモン・ヨハン フォトグラファー

1973年、ノルウェー生まれ。現在 NY を中心に活躍するアートフォトグラファー。Brooklyn Museum of Arts など、多くの美術館でパーマネントコレクションされている。2002年、写真集「Room to Play」発刊。

<http://www.simenjohan.com>

大門未希生 映画監督・東京芸術大学大学院映像研究科博士課程映像メディア専攻1年

1979年、東京都生まれ。明治学院大学卒。2002年、実験映画「hierophanie」が国内外で高い評価を得る。2005年、東京芸術大学大学院映像研究科入学。現在、博士課程にて劇場用新作長編を準備中。

酒井耕 映画監督

1979年、長野県生まれ。東京農業大学卒。2007年、東京芸術大学大学院映像研究科映画専攻監督領域を1期生として修了。在学中に監督した「ホームスイートホーム」が、現在劇場公開待機中。

千葉大樹 脚本家・映画コメンテーター

1977年、北海道生まれ。高校卒業後、LA に拠点を構え、映画制作集団「プラネットキッズ」を設立。現在、J-WAVE にて映画コーナー「INNERSKETCHES」のパーソナリティーとしても活躍中。

馬場淳 (Acci Baba) 映像作家

1977年、神奈川県生まれ。慶応大学卒。サンフランシスコで幼少期を過ごす。ロサンゼルス映画祭、オランダアニメーション映画祭、RESFEST JAPAN などに招待されたCM、PVなどの作品は、いずれも好評を博している。

松下ユリア 映像作家・早稲田大学大学院国際情報通信研究科1年

1977年、愛媛県生まれ。ポーランド人の母を持つ。London College of Fashion 卒。「TUTU」で、2000年度びあフィルムフェスティバル観客賞を受賞。現在、早稲田大学川口芸術学校在学中。

※1：生西康典氏と掛川康典氏は、合作で出品します。

※2：松原弘典氏と迫慶一郎氏は、合作で出品します。

【フランスプログラム】

「フェスティバル」は、2005年、06年、07年と過去三回フランスで開催されました。これまでのフランスでの「フェスティバル」から秀作をセレクトして、スクリーン上映します。様々な賞の受賞作品をはじめ、長編、中編、短編、フィクション、ドキュメンタリーなどを織り交ぜて構成されています。

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7  8  9  www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

2. シンポジウム

国内外からゲストを招き、「ポケットフィルム」(ケータイ映画)という新しいメディア表現の可能性について、教育、創造、社会といった多様な角度から論じるシンポジウムを開催します。

【ケータイ社会のゆくえ】

オープニングシンポジウムは、社会、生活、文化における想像力や創造性に対して携帯電話が与え続けている影響力をめぐって、メディア論、社会論、身体論などの領域から多角的に論じ、未来のケータイ生活を展望していきます。

【がんばれケータイ動画の時間】

小学校におけるワークショップの事例やそこで生まれた作品などを紹介しながら、映像リテラシーのあり方や「表現するケータイ」の教育における役割などを論じていきます。

【ポケットフィルム・フェスティバルの可能性】

マスコミの皆様および関係者向けのクロージングイベントとして、「フェスティバル」の審査員5名が、「ポケットフィルム」のコンセプトやフェスティバルという交流の場が持つポテンシャルについて討議します。また、フェスティバルの総評や受賞作品の発表も行います。

3. セッション

「フェスティバル」関係者をはじめ、創作、研究、教育関係者などが携帯電話と映像と表現を巡ってプレゼンテーションや相互のクロストークなどを行います。

【パノラマ・セッション】

今回の「フェスティバル」には、国内外の数多くの大学が参画しました。その中でも優秀作品を制作した大学6校(京都精華大学、情報科学芸術大学院大学、多摩美術大学、東京藝術大学、東京造形大学、ラサール美術大学《シンガポール》)が、作品紹介を交えながらプレゼンテーションや来場者とのセッションを行います。

【メイキング・オブ・ポケットフィルム・フェスティバル】

フランスのフェスティバル担当ディレクターが、コンセプト紹介や過去の事例、未来への展望、その問題点や可能性などをプレゼンテーションします。

【スペシャル・セッション「ケータイと表現メディア」(コンテンツ産業講座)】

アーティスト、表現者が考察する創作のツールや媒体としての携帯電話の可能性とは?フランス、日本での「フェスティバル」上映作品などを事例にしながら議論します。

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7 FRI | 8 SAT | 9 SUN www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

4. ワークショップ

これまで「フェスティバル」の一環として実施してきたワークショップのノウハウを生かして、来場者向けのワークショップを実施します。来場者に最新携帯電話をお貸しして※、動画撮影の面白さを体験していただきます。

※携帯電話をお貸しする際、運転免許証など本人を確認できる公的な証明証が必要になります。そのほかの注意事項については、お貸しする際に運営スタッフがご説明します。

5. 授賞式

「フェスティバル」で上映する48の公募作品の中から、最終審査の上、各賞を選定し、2007年12月9日（日）の「フェスティバル」最終日に授賞式を行います。なお、授賞式はマスコミの皆様および関係者向けのクロージングイベントとなります。

大賞（1作品）	賞金：50万円
優秀賞（1作品）	賞金：25万円
審査員特別賞（複数作品）	賞金：5万円
観客賞（1作品）	賞金：5万円

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7 (FRI) | 8 (SAT) | 9 (SUN) www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

■タイムテーブル (予定)

※タイムテーブルは一部変更になる可能性があります。

※作品は、メイン会場の新港会場と、馬車道会場の2箇所上映します。

< 12月7日 (金) >

時間	新港会場			馬車道会場
	スタジオ A	スタジオ B	ギャラリー	Theater F
14:00			コンペプログラム、 テーマプログラムの モバイル・ディスプレイ 上映	
15:00	シンポジウム 「ケータイ社会の ゆくえ」			
16:00				
17:00				
18:00	コンペプログラム スクリーン上映	レセプション		
19:00				
20:00				

< 12月8日 (土) >

時間	新港会場			馬車道会場		
	スタジオ A	スタジオ B	ギャラリー	Theater F		
10:00			コンペプログラム、 テーマプログラムの モバイル・ディスプレイ 上映			
11:00	テーマプログラム スクリーン上映					
12:00						
13:00	コンペプログラム スクリーン上映	セッション 「パノラマセッション」			コンペプログラム スクリーン上映	
14:00						
15:00	フランスプログラム スクリーン上映				コンペプログラム、 テーマプログラムの モバイル・ディスプレイ 上映	フランスプログラム スクリーン上映
16:00						
17:00						
18:00	テーマプログラム スクリーン上映	セッション「メイキング・ オブ・ポケットフィルム・ フェスティバル」				
19:00						
20:00	コンペプログラム スクリーン上映					
21:00						

POCKET FILMS Festival in Japan

2007.12.7 (FRI) | 8 (SAT) | 9 (SUN) www.pocketfilms.jp

ポケットフィルム・フェスティバル

< 12月9日 (日) >

時間	新港会場			馬車道会場		
	スタジオ A	スタジオ B	ギャラリー	Theater F		
10:00						
11:00	フランスプログラム スクリーン上映	シンポジウム 「がんばれケータイ動画の 時間」	コンペプログラム、 テーマプログラムの モバイル・ディスプレイ上 映ワークショップ 11:00 ~、 13:00 ~、 15:00 ~	コンペプログラム スクリーン上映		
12:00						
13:00	コンペプログラム スクリーン上映	スペシャル・セッション 「ケータイと 表現メディア」		フランスプログラム スクリーン上映		
14:00						
15:00	テーマプログラム スクリーン上映					
16:00						
17:00						
	授賞式					
18:00	シンポジウム 「ポケットフィルム・ フェスティバルの 可能性」					
19:00						
20:00		受賞パーティー				
21:00						

.....

< プレスお問い合わせ先 >

ポケットフィルム・フェスティバル実行委員会事務局

URL <http://www.pocketfilms.jp/>

e-mail query@pocketfilms.jp

電話 045-210-9297 (担当: 木村)

以 上